
無気力伝説

やかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無気力伝説

【Nコード】

N5965Y

【作者名】

やかん

【あらすじ】

強いくせにやる気のない3人組の軍人になるための学園生活が始まる。（ゆっくり更新です）

主人公その1その2

「.....」
長い廊下に男が一人歩いている。友人との会話を楽しんでいた、他の生徒達が黙りこむ。

長身で金色の髪をなびかせ、眼鏡をかけたその男の名はユキア。オイネウス学院の軍事科1年で数少ないSランクを持つ生徒だ。

底のない魔力を持っている南大陸からの者であるということと他の多くの生徒から一線を引かれているが、騒がしいのは好まないの
で本人はこの状況に満足している。

「ユキア」

名前を呼ばれ振り返ると、そこにいたのは赤髪の男。前髪をピンで止め、ヘッドホンを首に下げている。名をヒコという。彼は中央大陸の出身ではあるが、ユキアとは仲が良い。彼も同様にSランクを持っている。

「どうした？」

「んにゃ、特に用はないけど。教室出たらユキアが見えたから」

「ああ、そう」

オイネウス学院は生徒一人ひとりをランク分けする。最も高いランクがS。その次にA・B・C・E・Zと続く。Sランクは1学年に10人ほどしかおらず4学年合わせても50人に満たない。

クラス分けはランクごとではなくコンピュータによって自動で振り分けられる。軍事科は1学年5クラスあり、一クラス30人前後。オイネウス学院は普通科もあるが人数は圧倒的に軍事科が多い。

クラスの中で生徒のランクが違ふことで問題が起こることは少ない。自分より低いランクの生徒を見下した、いじめのようなものが存在することは生徒含め学院側も知っているが実力主義なため大きな事件等が起きなければ誰も動かない。

「そつえば、今日モギ見てないんだよね。学校きてんのかな？」

「さあな。僕もヒコもクラス違うから会わなくても仕方ないんじゃないか」

「んーうん、そだね。」

ユキア、ヒコ、それに今はいないがモギは全員がSランクとなっているため、同じクラスになれる確率は非常に低い。少人数しかないため仕方のないことなのだ。

会話が少し途切れた後、ユキアが何かを思い出したように声を上げた。

「ああ。そういえば、この前言ってた移転魔法使えそうだ」

「え、あれ普通は使えないんじゃないの？」

魔法には形式魔法（Магия Стиля）と無形式魔法（Стиль без магии）がある。簡単にいえば魔法書に書かれているのが形式魔法。使用者がオリジナルに創りだすのが無形式魔法である。無形式魔法には多くのリスクがあるためあまり使用されない。移転魔法は形式魔法だが無形式魔法と同じようにあまり使用されていない。非常に高度な魔法で魔法式を理解するのが難しいというのが使用されない一番の理由だ。

「魔力量が無駄に多いからね。何度でも練習できるんだよ」

「なるほど。meにはできない芸当だね。途中で絶対飽きるよ。もう無理〜って投げ出す」

「僕だって飽きるのは一緒。ただ、移転魔法が使えれば後で楽しめるだろ」

「ユキアらしい理由だね。で、その魔法を使えるゆーこーはんいは？」

ヒコは言葉を噛みかけたがなんとか言い切る。そんなヒコにユキアは苦笑しつつ答えた。

「基本的にどこでも行けると思う。練習したときは自分の部屋から Центр Светаまで行き来したけど、失敗しなかった。地名が付いているところなら行けるんじゃないか。まあ、確実なのは僕が行ったことのある場所。あ、だけど聖域とかは絶対行けない。」

はじかれるらしい」

Центр Светаというのはユキアの故郷の名前だ。同じ言葉を話す中央と南だが、一部方言のような違いがある。Центр Светаは南の方言で光の中心という意味だ。

「なんか難しい……聞いてたら頭痛くなってきた」

「ばーか」

「うわぁ、ひどー。me涙でそう」

「でなくせに何言ってるんだ」

「痛っ。ちょ、何でもかんでも暴力に訴えるのやめようよ!!」

ユキアがヒコの頬を引っ張る。

「はっ。どうして僕がお前の言うことを聞かないといけないんだ？」

嘲笑を浮かべながらヒコを見下ろすユキア。10センチほど違いがあるためにヒコは完全に見下ろされている。

「くそっ。身長差が恨めしい……!!」

主人公その1その2（後書き）

初の長編小説。

楽しんでいただけたら幸いです。

主人公その3

「モギ」

戦闘を主としない普通科の生徒が使用している棟の図書室で一人読書をしていた生徒をヒコが呼んだ。ユキアは黙ったままヒコの後ろに立っている。

周りにいるのはほとんどが普通科の生徒のため3人は浮いていた。普通科は制服の着用が義務とされているが、軍事科は校則が緩いため自由な格好をしているというのも浮く原因の1つだろう。

モギと呼ばれた生徒は、ジャージ姿だが首のあたりから学校指定のワイシャツの襟が見えているので下に制服を着ているものと思われる。

パツと見はつきり言つて男にしか見えないが、女だ。もう一度言う。女だ。

「何？」

1つにくぐられた黒の強い濃紺の髪に、深い海色の瞳。どちらも太陽の光が反射することでもなんとも言えない美しさが出ている。

「飯にしよう？」

「ん」

短い返事を了解ということだと判断したヒコはユキアと図書室を出た。

「ていうかさ、さっきまで授業だったよね」

ヒコがふと浮かんだ質問をユキアにする。

「そつだな」

「どうして図書館にいるん？」

「サボりだろ」

「やっぱり？」

「ああ。どうせ家で家庭教師から教えてもらったことだったんだろ。一回習ったこと何回も教えられるのって面倒だから」

モギの家は貴族制があった頃、上流貴族だった。その中でも財力や発言力は高く、今でも経済的地位が高い。一族に生まれたものは幼少の頃より英才教育を受ける。

つまりモギにとって、オイネウス学院での授業の多くは一度学習したことでの復習なのだ。

進級に必要な単位だけをとれば、あとは何の問題もない。数少ないSランクも持っている。モギは学力も戦闘能力も十分にあるということだ。

「待たせてごめん」

本を片脇に抱えたモギが図書室から出てくる。

「んにゃ、問題ないよ」

いじっていたヘッドフォンのコードから手を離しヒコが答える。

「何の本借りたん？」

抱えられている本を指さしながらユキアが問う。

「推理小説とか」

「へえ。面白かったら今度教えて」

「了解」

3人は似ている部分も多いが正反対の部分も持ち合わせている。

周りからすれば、アンバランスな3人組だろう。だが、3人は絶妙なバランスで関係を保っているのだ。もともと仲が良かったわけではない。特に入学したばかりの時は、モギとユキアは仲が悪かったと言ってもいい。

入学してから3ヶ月ほど。会話が噛み合わないことは多々あるが、3人は仲良くやっている。

- - - - -
ユキア↓ユ ヒコ↓ヒ モギ↓モ

ユ「じー」

ヒ「何見てるのーって普通科の子じゃん」

ユ「いや、スカートの中見えそうで見えないなーとか思ってた」

モ「天誅」

ユ「痛っ、え僕なんかした？」

ヒ「自分の発言を振り返ってみようね？」

ユ「自分の発言？……風が吹いてスカート抑えるくらいなら短いスカート穿くんじゃねえって？あれ、違うか」

モ「……………」

ヒ「そこを動くなよ、ユキア」

ユ「ちよ、それは痛いからやめようね？ライフルって重量ハンパねえよ」

ヒ「てんちゅー」

ユ「ぐっ……………」↑片膝をついた

モ「容赦ねえ」

ヒ「ユキアが悪い」

モ「まあ、確かにな」

ユキア「……………（微妙に見えない、か）」

ユル「なあにしてんの？ユキア」

ユキア「んあ？ああ、ユルか。スカートがなー」

ユル「スカート？それがどうしたのん？」

ユキア「抑えるくらいなら短いスカート穿くんじゃねえよって思ってたさ」

ユル「ユキアって意外と……………」

ユキア「お前も男だったら一度くらい考えたことあるだろ？僕は思ってたことを口にしただけだ」

ユル「私は男じゃないわよ、この変態っ！」

ユキア「はあ？お前は男だろっ」

ユル「痛っ。もうっ暴力反対！」

ユキア「オカマ反対」
二人「……………」

主人公その3（後書き）

ユキアは変態ではないです。でも年頃の男の子なので勘弁してやってください（笑）

会話文のみの中の最後に出てきたユルはそのうち本文にも登場すると思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5965y/>

無気力伝説

2011年11月30日17時48分発行